

# 令和3年度（2021年度）通常総会資料

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

公益社団法人 日本磁気学会  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11  
東京YWCA会館 207号室  
電話 (03)5281-0106, メール [msj@bj.wakwak.com](mailto:msj@bj.wakwak.com)

## 通常総会議事予定

### <配布資料>

1. 議事予定
2. 通常総会資料

### <通常総会議事>

#### 議 事

- 第1号議案 令和3年度（自2021年4月1日 至 2022年3月31日）  
事業報告に関する件
- 第2号議案 令和3年度（自2021年4月1日 至 2022年3月31日）  
収支決算報告に関する件
- 第3号議案 令和4年度（2022年度）事業計画に関する件
- 第4号議案 令和4年度（2022年度）収支予算に関する件
- 第5号議案 名誉会員の推薦に関する件

—以上—

# 第1号議案 令和3年(2022年)度 事業報告に関する件

## 令和3年度 事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

今年度も昨年度から引き続きコロナ禍のため、対面イベントが制限される等、従来と大きく異なる学会運営を余儀なくされた。この困難な状況においても、会長・副会長のリーダーシップの下、理事会、並びに各委員会が知恵を出し合い、学会のアクティビティ向上のための各種の施策を強力に実行した。例えば、企画委員会では、成長が見込めるパワーマグネティクス分野に関する初等的入門講座を開催し、異分野交流を深めると共に、磁気学会のプレゼンス向上に大きく貢献した。総務委員会ではオンラインによる事務局との打ち合わせを毎月開催し、円滑な学会運営に寄与した。広報委員会では、会員向けサービスの一環として、「まぐね」連載講座の一部記事をホームページに掲載し、自由に閲覧可能とした。

学術講演会は昨年と同様にオンライン開催を余儀なくされたが、昨年度の経験を活かし、大きなトラブルもなく成功裏に開催することができた。表彰式もオンラインにて開催し、コロナ禍のため開催延期となっていた令和2年度表彰式と合同で実施した。また、コロナ禍のため延期となった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 については、国際委員会と実行委員が連携して検討を進め、IcAUMS2024 として沖縄にて開催することとなった。

財政健全化についても、財務委員会のアドバイスの下、副会長（運営戦略担当）を中心とした広告タスクフォース活動、理事会や各委員会並びに各研究会のオンライン化の継続、新たな講習会の実施等により、昨年度と同様に赤字幅を削減した予算状態を達成できた。

## I 事業の状況

### 1. 研究発表会、講演会等の開催（定款4条1号）

#### 1. 1 学術講演会及びシンポジウム

本年度もコロナ禍のために第45回学術講演会はオンライン形式で開催した。

#### ◎第45回学術講演会

期日：	令和3年8月31日（火）～9月2日（木）
会場：	オンライン開催（Zoom）
実行委員長：	近藤剛（キオクシア）
講演件数：	197件
セッション数：	37
参加者数：	377名

#### ※シンポジウム一覧

- 1) “New trends in magnetic field application” 参加者：25名
- 2) “Prospects for ultra-sensitive magnetic sensor devices with sub-pico-tesla

- detectivity” 参加者：70名
- 3) “Recent progress of relationship between magnetism and light” 参加者：51名
- 4) “Medical applied research of Biomagnetic” 参加者：40名

## 1. 2 研究会

第232回から第236回までの5回の研究会を、下記の通り企画・オンライン開催した。  
※第232回研究会は昨年度開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度に延期開催した。

- 1) 第232回研究会報告/第57回強磁場応用専門研究会  
「磁場の時空間制御と弱磁性物質への応用」  
期日：令和3年5月12日（金）  
会場：オンライン開催（Webex）  
参加者：21名
- 2) 第233回研究会/第92回ナノマグネティクス専門研究会  
「磁気記録技術の最近の研究動向」  
期日：令和3年10月26日（火）  
会場：オンライン開催（Zoom）  
参加者：44名
- 3) 第234回研究会  
「医療分野での磁気関連技術の新展開」  
期日：令和3年11月22日（月）  
会場：オンライン開催（Zoom）  
参加者：38名
- 4) 第235回研究会/第82回スピントロニクス専門研究会  
「磁性材料の分析評価技術の進展」  
期日：令和4年1月19日（水）  
会場：オンライン開催（Zoom）  
参加者：29名
- 5) 第236回研究会/第69回化合物新磁性専門研究会  
「新しい磁性研究のための量子ビームと計算科学の連携利用」  
期日：令和4年2月9日（水）  
会場：オンライン開催（Zoom）  
参加者：22名

## 1. 3 講習会、公開講座

初等磁気工学講座およびサマースクールを、下記の通りオンライン開催した。また今年度新設のMSJ講習会もオンライン開催した。公開講演会については、開催を先送りすることとなった。

◎第26回初等磁気工学講座

期日：令和3年6月8日(火)

会場：オンライン開催 (Zoom)

参加者：33名

◎第44回サマースクール

期日：令和3年6月9日(水)～6月11日(金)

会場：オンライン開催 (Zoom)

参加者：43名

※公益財団法人加藤科学振興会 令和3年度研究集会助成金を受けて実施

◎MSJ講習会 「パワーマグネティクスの基礎と応用」

期日：令和4年1月11日(火)

会場：オンライン開催 (Zoom)

参加者：65名

◎第28回公開講演会「磁石の不思議な世界－聞いて、さわって、体験しよう－」

公開講演会の開催準備を進めていたが（開催日程：2022年3月、会場：千葉工業大学）、開催地を含む首都圏がコロナ禍によるまん延防止等重点措置の対象地域となったため、本年度は実施を見送った。

## 1. 4 専門研究会

本年度はナノマグネティクス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、エネルギーマグネティクス専門研究会、バイオマグネティクス専門研究会、磁気センサ専門研究会を下記の通り開催した。

1) ナノマグネティクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第92回	令和3年10月8日	オンライン開催	44名
第93回	令和3年10月26日	オンライン開催	40名

2) スピントロニクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第78回	令和3年4月6日	オンライン開催	67名
第79回	令和3年7月27日	オンライン開催	42名
第80回	令和3年9月30日	オンライン開催	40名

第 81 回	令和 3 年 11 月 19 日	オンライン開催	72 名
第 82 回	令和 4 年 1 月 19 日	オンライン開催	29 名
第 83 回	令和 4 年 3 月 30 日	オンライン開催	42 名

3) 化合物新磁性材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 69 回	令 4 年 2 月 9 日	オンライン開催	22 名

4) 強磁場応用専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 57 回	令和 3 年 5 月 12 日	オンライン開催	21 名
第 58 回	令和 3 年 8 月 31 日	オンライン開催	25 名
第 59 回	令和 3 年 12 月 9 日	オンライン開催	20 名
第 60 回	令和 4 年 2 月 22 日	オンライン開催	21 名
第 61 回	令和 4 年 3 月 7 日	オンライン開催	16 名

5) 光機能磁性デバイス・材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 44 回	令和 3 年 8 月 31 日	オンライン開催	51 名
第 45 回	令和 4 年 1 月 17 日	オンライン開催	48 名

6) エネルギーマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 14 回	令和 3 年 6 月 2 日	オンライン開催	132 名

7) バイオマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 7 回	令和 3 年 9 月 1 日	オンライン開催	40 名

8) 磁気センサ専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 5 回	令和 3 年 9 月 2 日	オンライン開催	70 名

## 1. 5 国際会議の主催、共催

本年度は、下記の国際会議を協賛した。

1) International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2021  
(ISOM'21)

神戸商工会議所会館 (オンライン併用)

ISOM'21 組織委員会

令和 3 年 10 月 3 日 (日)~6 日(水)

2) 13th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices, Online (ALC'21 Online)

オンライン開催  
公益社団法人日本表面真空学会  
令和3年10月19日(火)～20日(水)

1. 6 国際会議の準備

前年度から引き続き、下記の国際会議の準備を進めた。

◎Joint IcAUMS-ISAMMA2020 (沖縄コンベンションセンター)

※実行委員会を中心に開催に関する検討を進め、2024年IcAUMS2024として沖縄にて開催することとした。

◎INTERMAG 2023 (仙台国際センター) 令和5年5月15～19日

※実行委員会(2021年12月15日、2022年4月21日)に参加し、会議開催準備金等、開催に向けて現地実行委員会と連携して必要な検討を進めた。

1. 7 AUMS (Asian Union of Magnetism Societies)との連携

コロナ禍のため延期となったJoint IcAUMS-ISAMMA2020について、国際委員会が窓口となってAUMS Council memberと今後の対応について検討を進めた。合計4回のAUMS Council meetingをオンラインで開催し、コロナ禍におけるIcAUMSの開催について実施の可能性も含めて様々な検討を行った。令和4年1月からProf. Shao-Xiong Zhou(中国)がAUMS Presidentとなり、新体制が発足した。

◎第26回 AUMS Council meeting (令和3年8月16日オンライン開催)

MSJ選出のAUMS Council memberについて、高梨先生から中川前会長へ、中野前国際理事から菊池新国際理事への変更を提案し、承認された。

◎第27回 AUMS Council meeting (令和3年10月25日オンライン開催)

MSJからIcAUMS2024の開催時期について提案し承認された。

◎第28回 AUMS Council meeting(令和3年12月27日オンライン開催)

IcAUMS2022開催について検討がなされた。

◎第29回 AUMS Council meeting (令和4年2月21日オンライン開催)

沖縄開催のIcAUMS2024について、会場、開催期間が確定し、施設の予約が行われたことを報告した。

## 2. 学会誌の刊行（定款4条2号）

Journal of the Magnetics Society of Japan (JMSJ) を45巻3号より46巻2号まで計6回、日本磁気学会論文特集号を5巻1号より5巻2号まで計2回、また会報「まぐね」を16巻2号より17巻1号の計6回発行した。「JMSJ」は論文に特化し、英文論文を掲載した。「日本磁気学会論文特集号」は学術講演会での講演に基づいた論文で、和文、英文によらない論文を掲載した。また学生の研究と論文投稿を奨励するため、これら論文誌の各号毎にMSJ論文奨励賞授賞の選考を行った。「まぐね」は論説、解説、特集記事、連載講座など寄稿記事を中心に編集した。

### 2. 1 学会誌 Journal of the Magnetics Society of Japan

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
45-3	令和3年5月1日	論文5件、総ページ数 25
45-4	令和3年7月1日	論文7件、総ページ数 43
45-5	令和3年9月1日	論文3件、総ページ数 18
45-6	令和3年11月1日	論文2件、総ページ数 13
46-1	令和4年1月1日	論文4件、総ページ数 21
46-2	令和4年3月1日	論文3件、総ページ数 27

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

### 2. 2 日本磁気学会論文特集号

#### Transaction of the Magnetics Society of Japan -Special Issues-

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
5-1	令和3年5月1日	論文10件、総ページ数 54
5-2	令和3年9月1日	論文2件、総ページ数 12

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

### 2. 3 MSJ論文奨励賞の授与

掲載論文発行月	掲載誌、受賞部門、受賞者所属および氏名
令和3年5月	Journal of the Magnetics Society of Japan Vol.45, No.3 <博士課程の部> 東北大学 羽根 吉紀 様  <修士課程の部> 東北学院大学 神林 守人 様 福島大学 高橋 優太 様  日本磁気学会論文特集号 第5巻1号 <修士課程の部> 山形大学 梅津 勝平 様

	岡山大学 齊藤 大介 様 東北大学 永井 歩美 様 東北大学 細野 雄也 様 東北大学 村田 啓太 様
令和3年7月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.45, No.4 <博士課程の部> 東北大学 羽根 吉紀 様 京都大学 小林 裕太 様
令和3年9月	日本磁気学会論文特集号 第5巻 2号 <修士課程の部> 東北大学 宮崎 大輝 様
令和3年11月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.45, No.6 <学部等学生の部> 横浜国立大学 中村 優太 様
令和4年1月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.46, No.1 <博士課程の部> 東北大学 伊藤 亘輝 様
令和4年3月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.46, No.2 <修士課程の部> 横浜国立大学 野口 翔矢 様

## 2. 4 学会報「まぐね」

巻—号	発行年月日	内容(詳細は各号の目次参照)
16-2	令和3年4月1日	論説「企業研究者/技術者として「磁気」と携わって」(田邊信二) 特集「スピンを意識した材料の設計・合成・機能 化学者の観点から」 トピックス 4件 総ページ数 44
16-3	令和3年6月1日	論説「コロナ禍で思ったこと」(宮崎照宣) 特集「高周波電磁ノイズ対策用磁気技術の最前線」 解説 2件、トピックス 3件 総ページ数 42
16-4	令和3年8月1日	論説「マルチスケールで見る研究と社会」(田中陽一郎) 特集「磁気浮上技術の応用事例」 解説 1件、トピックス 4件 初等連載講座 1件 総ページ数 58
16-5	令和3年10月1日	論説「“Inner voice” に応えよう」(與田博明) 特集「機能性ホイスラー合金の材料研究の最前線」 解説 1件、トピックス 4件

		初等連載講座 1 件総ページ数 48
16-6	令和 3 年 12 月 1 日	令和 3 年度 日本磁気学会授賞 論説「日本磁気学会入会からの楽しい冒険」(園部義明) 特集「スピントロニクスと熱電現象」 解説 2 件、トピックス 3 件 総ページ数 62
17-1	令和 4 年 2 月 1 日	論説「社会変革の狭間で」(松沼 悟) 特集「希磁性体を含むヘテロ構造の最近の進展」 解説 1 件、トピックス 4 件 初等連載講座 1 件 総ページ数 62

副会長(運営戦略担当)中心の広告タスクフォースとともに、広告代理店と密接に協力して学会報まぐねへの広告投稿勧誘を積極的に継続実施した。広告出稿企業のすそ野を広げることができ、まぐねの魅力向上につながった。

### 3. 研究および調査の実施(定款4条3号)

#### 3. 1 技術情報サービス等による情報提供

磁気の学理および応用に関する研究領域における最先端情報の調査をすすめ、技術情報サービス(No.186~195)やメールマガジン(No.278~305)により会員へ情報提供を行ったほか、Facebookによる情報発信サービスを行った。また、会員向けサービスの一環として、「まぐね」連載講座の一部記事をホームページに掲載し、閲覧可能とした。今後も順次掲載記事を増やすことで、磁気関連分野への関心を高めるとともに、会員サービスの拡充を図るとの方針を定めた。

#### 3. 2 磁気研究の活性化に資する広報活動の強化

Facebookの活用を通じた戦略的な勧誘活動を通じて閲覧数を増やす方策を検討し、記事の定期的更新とともに、各研究会の紹介や報告概要の掲載、各種受賞者の紹介などコンテンツの充実を図った。

#### 3. 3 ホームページの管理および安定運用

ホームページにおける記載内容の不備を適宜修正するとともに、セキュリティレベルを維持するために、定期的にホームページのテーマセット及びプラグインのアップデートを随時実施した。

#### 4. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款4条4号）

令和3年度学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞、学生講演賞、出版賞、新技術・新製品賞、および学会活動貢献賞の表彰を、下記の通り行った。また、学会賞および業績賞受賞者に対しては、その功績を称えMSJフェロー称号の授与を行った。なお、令和3年度は学術講演会がオンライン開催となったため、表彰式もオンラインにて開催し、コロナ禍のため開催延期となっていた令和2年度表彰式と合同で実施した。

学会賞、業績賞、優秀研究賞については杉本諭委員長・齋藤秀和副委員長、論文賞、学術奨励賞、出版賞については小野輝男委員長、学生講演賞、新技術・新製品賞、技術功労賞、学会活動貢献賞については湯浅裕美委員長、の体制でそれぞれ選考を担当した。

##### ◎学会賞・フェロー

- ・中川 活二 氏（日本大学）  
「光磁気記録に関する基礎および応用研究」

##### ◎業績賞・フェロー

- ・小野 輝男 氏（京都大学）  
「磁性ナノ構造におけるスピン物性の研究」
- ・高橋 有紀子 氏（物質・材料研究機構）  
「高機能磁性薄膜のナノ組織制御に関する研究」

##### ◎優秀研究賞

- ・中村 哲也 氏（東北大学）  
「放射光による高性能永久磁石材料の保磁力機構に関する研究」
- ・野崎 隆行 氏（産業技術総合研究所）  
「電圧による高速スピン制御技術の開拓」

##### ◎論文賞

- ・ M. Ishibashi, Y. Shiota, S. Funada, T. Moriyama, and T. Ono  
「 Spin Wave Resonance in Perpendicularly Magnetized Synthetic Antiferromagnets」  
J. Magn. Soc. Jpn., **45**, pp.25-29 (2021).
- ・ Y. Hane, K. Sugahara, and K. Nakamura  
「A Novel Reluctance Network Model Applicable for Open Magnetic Circuit」  
J. Magn. Soc. Jpn., **45**, pp.112-117 (2021).

### ◎学術奨励賞（内山賞）

- ・ 洪 鈺珉 氏（京都大学）  
「Low Current Driven Vertical Domain Wall Motion Memory with an Artificial Ferromagnet」  
J. Magn. Soc. Jpn., **45**, pp.6-11 (2021).
- ・ 村田 啓太 氏（東北大学）  
「アモルファス Fe-B 軟磁性微粒子の静的・動的磁気特性」  
日本磁気学会論文特集号 **5**, 1-5 (2021).
- ・ 神林 守人 氏（東北学院大学）  
「Structure and Magnetic Properties of Sm(Fe<sub>0.8</sub>Co<sub>0.2</sub>)<sub>12</sub> Thin Films by Adding Light Elements」  
J. Magn. Soc. Jpn., **45**, 66-69 (2021).
- ・ 根津 昇輝 氏（横浜国立大学）  
「多磁区状態の強磁性薄膜におけるスピン波伝播の外部磁場依存性」  
日本磁気学会論文特集号 **5**, 6-9 (2021).
- ・ 梅津 勝平 氏（山形大学）  
「フィゾー光干渉法による磁歪測定装置の作製」  
日本磁気学会論文特集号 **5**, 16-21 (2021).
- ・ 小林 千絵 氏（日立製作所）  
「三相ハイブリッド鉄心構造の磁束密度分布に関する検討」  
日本磁気学会論文特集号 **5**, 32-36 (2021).

### ◎学生講演賞（櫻井講演賞）

- ・ 増田 啓人 氏（東北大学）  
「Cu 基非平衡合金における巨大スピンホール効果」  
講演番号：第 44 回学術講演会 17aA-9
- ・ 榊原 有理 氏（慶応義塾大学）  
「熱励起スピン流を用いた  $D_y$  のスピンホール電圧測定」  
講演番号：第 44 回学術講演会 14aA-9
- ・ 佐野 友輝 氏（東北大学）  
「磁気トルクによる磁石振動を用いた触覚提示手法の検討」  
講演番号：第 44 回学術講演会 14pC-9
- ・ 石田 竜太 氏（東北大学）  
「伝送線路中の高周波電流可視化に関する研究」

講演番号：第 44 回学術講演会 14pD-4

- ・趙 望臻 氏 (名古屋大学)  
「[CoPd/Pd]/[Co/Pd]ハイブリッドメモリ層の熱アシスト STT 磁化反転」  
講演番号：第 44 回学術講演会 15pC-7
- ・今 裕史 氏 (秋田大学)  
「交番磁気力顕微鏡を用いた磁気記録ヘッドの高空間分解能・磁場エネルギーイメージング -直流磁場と交流磁場の交差エネルギーによる信号強度の増大-」  
講演番号：第 44 回学術講演会 15pD-2
- ・小野田 浩成 氏 (筑波大学)  
「異なる磁気異方性主軸をもつ 2 層膜界面におけるねじれたスピン構造」  
講演番号：第 44 回学術講演会 17pB-2
- ・野村 英志 氏 (岩手大学)  
「偏極中性子小角散乱による中空 Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub> 粒子の磁化解析」  
講演番号：第 44 回学術講演会 17pB-15

#### ◎出版賞

- ・早乙女 英夫 氏、細谷 達也 氏、松木 英敏 氏、田倉 哲也 氏、佐藤 文博 氏、一ノ倉 理 氏、中村 健二 氏、田島 克文 氏、福岡 克弘 氏、小坂 大吾 氏  
書籍名/出版社：「パワーマグネティクスのための応用電磁気学」(共立出版)
- ・赤城 文子 氏  
書籍名/出版社：「モーター設計のための磁性材料技術」(科学情報出版)

#### ◎新技術・新製品賞

- ・本年度の該当なし

#### ◎技術功労賞

- ・本年度の該当なし

#### ◎学会活動貢献賞

- ・谷山 智康 氏 (名古屋大学)  
「編集委員会活動を通じた学会の活性化への貢献」
- ・首藤 浩文 氏 (物質・材料機構)、近松 彰 氏 (東京大学)  
「企画委員会活動を通じた学会活動の活性化への貢献」

## 5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款4条5号）

下記の会合を協賛した。

- 1) 第37回希土類討論会  
主催：日本希土類学会  
オンライン開催  
令和3年5月19日(水)～20日(木)
- 2) ナノ学会第19回大会  
主催：ナノ学会  
オンライン開催  
令和3年5月20日(木)～22日(土)
- 3) 2021年度時計学会夏季研究会  
主催：(一社)日本時計学会  
オンライン開催  
令和3年7月2日(金)
- 4) 令和3年度 JPARC MLF 産業利用報告会  
主催：(一財)総合科学研究機構 中性子科学センター  
オンライン開催  
令和3年7月15日(木)～16日(金)
- 5) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2021（第15回）  
主催：NPO 法人 natural science  
東北大学川内北キャンパス (or オンライン)  
令和3年7月18日(日)
- 6) 第31回 RCJ 信頼性シンポジウム  
主催：日本電子部品信頼性センター  
日本教育会館  
令和3年10月21日(木)～22日(金)
- 7) 第50回結晶成長国内会議（JCCG-50）  
主催：日本結晶成長学会  
オンライン開催  
令和3年10月27日(水)～19日(金)
- 8) 日本希土類学会第39回講演会  
主催：日本希土類学会  
崎陽軒本店6階会議室  
令和3年11月10日(水)
- 9) 第64回自動制御連合講演会  
主催：(一社)システム制御情報学会  
オンライン開催  
令和3年11月13日(土)～14日(日)
- 10) MagHEM・ESICMM 合同成果報告会

主催：物質・材料研究機構 磁性材料研究拠点  
東京大学伊藤謝恩ホール

令和3年12月1日(水)

1 1) 第30回 MAGDA コンファレンス in 広島

主催：MAGDA2021 実行委員会  
オンライン開催

令和3年12月6日(月)～7日(火)

1 2) 2021年度磁性流体連合講演会

主催：磁性流体研究連絡会  
オンライン開催

令和3年12月9日(木)～10日(金)

1 3) IIP2022 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会

主催：一般社団法人日本機械学会  
オンライン開催

令和4年3月7日(月)～8日(火)

1 4) 2021年度量子ビームサイエンスフェスタ

主催：高エネルギー加速器研究機構 他  
オンライン開催

令和4年3月7日(月)～9日(水)

## Ⅱ 処務の概要

### 1 会議

令和3年4月1日から令和4年3月31日の間に下記の会議を開催した。

#### 1) 総会

本年度は令和3年6月17日に通常総会を行い、令和2年度事業報告、令和2年度収支決算報告、令和3年度事業計画、名誉会員の推薦、令和3および4年度役員員の推薦についての議案が審議され、原案通り可決された。なお、令和3年度収支予算については、収支予算書に記載不備があったため、後日（令和3年7月29日）臨時総会を開催し、審議の上、可決された。

#### 2) 顧問会

本年度はコロナ禍のため、顧問会の開催を見送った。

#### 3) 理事会（コロナ禍のため、オンライン会議で実施）

下記期日に開催した。

令和3年6月17日、令和3年7月29日、令和3年9月24日、  
令和3年12月2日、令和3年2月24日

#### 4) 諸委員会（コロナ禍のため、オンライン会議やメール審議を含む）

総務委員会 2回、事務局－総務合同会議 18回、財務委員会 2回、  
企画委員会 7回、編集委員会 6回、広報委員会 2回、  
AUMS Council meeting 4回  
学会賞、業績賞、優秀研究賞選考委員会 1回  
論文賞、学術奨励賞（内山賞）選考委員会 1回  
新技術・新製品賞、技術功労賞、学会活動貢献賞選考委員会 1回  
学生講演賞選考委員会 1回  
出版賞選考委員会 1回

#### 5) その他

昨年度に引き続き本年度もコロナ禍のため、名誉会員懇談会および賛助会員懇談会の開催を見送った。同様に賛助会員訪問活動も休止したが、来年度以降、コロナ状況が改善されれば、賛助会員の貢献に対する本学会の謝意を表す活動として再開実施する。また賛助会員と会員をつなぐ活動の一助として、学会報まぐねの「新技術・新製品」コーナーへの投稿呼びかけも継続する。

コロナ禍のため各種会議や講演会等をオンライン実施したことや、企画委員会中心に新規講習会を企画・開催する等、収益に寄与する諸施策を実施いただき令和2年度決算でも、引き続き赤字幅を削減した予算状態継続を達成できた。今後、引き続き突発的なコロナ禍による大幅な事業形態変更のリスクも想定される。財務状況の推移を注視すると共に、支出の削減と収入増の方策を継続検討する。

## 2 契約に関する事項

### ◎契約案件一覧

契約年月日	相手方	契約の内容	期間
令和 3 年 3 月 26 日	韓国磁気学会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 4 年 4 月 1 日	学術著作権協会	複写に関わる権利委託	5 年※
平成 29 年 12 月 2 日	台湾磁気技術協会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 4 年 4 月 1 日	学術情報学研究所	電子図書館サービス	1 年※
令和 3 年 8 月 1 日	文野公認会計士事務所	決算の監査	1 年
令和 4 年 4 月 1 日	Mr. Michael Gallagher	日本磁気学会誌英文、リライト	1 年※
令和 3 年 5 月 12 日	(株)科学技術社	学会誌の広告に関する代理業務	1 年
令和 3 年 12 月 10 日	(株)国際文献社	日本磁気学会報印刷	1 年※
令和 4 年 3 月 12 日	東京書庫(株)	文書の保管および運搬	1 年※
令和 3 年 11 月 30 日	三菱地所リアル エステートサービス	東京 YWCA 会館 事務所の賃貸権	2 年※
令和 2 年 1 月 31 日	IEEE Magnetics Society	Sister Society Agreement	3 年

※は自動更新の契約

## 3 会員の異動状況

会員種別	員 数		
	本年度末現在 (令和 4 年 2 月 2 4 日現在)	前年度末現在 (令和 3 年 3 月 3 1 日現在)	増減
正会員	1, 1 2 3	1, 1 4 0	- 1 7
賛助会員	6 4	6 5	- 1
学生会員	3 0 9	3 0 5	4
名誉会員	4 4	4 7	- 3

## 4 事業報告の内容を補足する重要な事項

令和 3 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。

## 第2号議案 令和3年度（2021年）収支決算報告に関する件

### 貸借対照表

2022年 3月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	10,778	20,032	△ 9,254
普通預金	15,890,628	15,249,794	640,834
未収金	481,250	697,150	△ 215,900
前払金	1,517,016	1,540,007	△ 22,991
仮払金	0	93,688	△ 93,688
流動資産合計	17,899,672	17,600,671	299,001
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
<small>学術奨励特定預金（内山賞・学生講演賞）</small>	2,000,000	2,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	17,009,023	0
事務所充実特定預金	471,962	471,962	0
出版広報特定預金	6,216,068	6,216,068	0
萌芽的研究推進特定預金	20,327,849	20,774,030	△ 446,181
退職給付引当預金	4,868,094	3,547,170	1,320,924
特定資産合計	50,892,996	50,018,253	874,743
(3) その他固定資産			
什器備品	2	43,057	△ 43,055
ソフトウェア	210,996	281,328	△ 70,332
電話加入権	134,625	134,625	0
敷 金	1,072,500	1,072,500	0
その他固定資産合計	1,418,123	1,531,510	△ 113,387
固定資産合計	62,311,119	61,549,763	761,356
資産合計	80,210,791	79,150,434	1,060,357
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
前受金	478,000	530,000	△ 52,000
前受会費	7,198,500	7,664,000	△ 465,500
預り金	433,885	593,021	△ 159,136
源泉所得税（給）	58,580	125,780	△ 67,200
住民税	258,400	415,600	△ 157,200
社会保険料	86,275	41,944	44,331
所得税（報）	30,630	9,697	20,933
賞与引当金	958,600	537,400	421,200
未払金	89,421	283,810	△ 194,389
未払消費税	539,800	475,000	64,800
仮受金	20,000	10,000	10,000
流動負債合計	9,718,206	10,093,231	△ 375,025
2. 固定負債			
退職給付引当金	4,868,094	3,547,170	1,320,924
固定負債合計	4,868,094	3,547,170	1,320,924
負債合計	14,586,300	13,640,401	945,899
<b>III 正味財産の部*</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産合計	10,247,317	10,247,317	0
(うち特定資産への充当額)	( 10,247,317)	( 10,247,317)	(0)
2. 一般正味財産	55,377,174	55,262,716	114,458
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	( 0)
(うち特定資産への充当額)	(35,777,585)	(36,223,766)	(△446,181)
正味財産合計	65,624,491	65,510,033	114,458
負債及び正味財産合計	80,210,791	79,150,434	1,060,357

# 正味財産増減計算書

2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
<b>基本財産運用益</b>	<b>100</b>	<b>1,301</b>	<b>△ 1,201</b>
基本財産運用益	100	1,301	△ 1,201
<b>特定資産運用益</b>	<b>439</b>	<b>496</b>	<b>△ 57</b>
特定資産運用益	439	496	△ 57
<b>受取入会金</b>	<b>194,000</b>	<b>174,000</b>	<b>20,000</b>
受取入会金	194,000	174,000	20,000
<b>受取会費</b>	<b>15,299,500</b>	<b>16,231,000</b>	<b>△ 931,500</b>
正会員費収入	10,400,500	11,462,000	△ 1,061,500
学生会員費収入	599,000	569,000	30,000
賛助会員収入	4,300,000	4,200,000	100,000
<b>事業収益</b>	<b>14,568,922</b>	<b>13,792,401</b>	<b>776,521</b>
学術講演会収入	3,768,920	3,735,900	33,020
研究会収入	1,413,940	1,579,800	△ 165,860
講習会収入	1,266,100	1,448,700	△ 182,600
岩崎コンファレンス収入	735,000	0	735,000
MSJ講習会収入	1,785,000	0	1,785,000
専門研究会収入	43,000	0	43,000
投稿料収入	1,727,000	2,387,000	△ 660,000
その他投稿料	71,500	95,700	△ 24,200
和文著作権料収入	214,362	203,986	10,376
広告料収入	3,338,500	3,965,115	△ 626,615
会誌別刷り代収入	172,600	376,200	△ 203,600
40周年記念事業収入	33,000	0	33,000
<b>受取補助金等</b>	<b>500,000</b>	<b>300,000</b>	<b>200,000</b>
受取民間助成金	500,000	300,000	200,000
<b>雑収益</b>	<b>571,074</b>	<b>674,300</b>	<b>△ 103,226</b>
受取利息収入	74	134	△ 60
雑収入	571,000	674,166	△ 103,166
経常収益計	31,134,035	31,173,498	△ 39,463
(2) 経常費用			
① 事業費	<b>26,901,048</b>	<b>27,248,511</b>	<b>△ 347,463</b>
<b>雑誌発行費</b>	<b>4,446,752</b>	<b>5,281,543</b>	<b>△ 834,791</b>
会誌発行費(まぐね)	3,674,898	4,211,958	△ 537,060
論文発行費	694,854	962,665	△ 267,811
電子ジャーナル発行費	77,000	106,920	△ 29,920
<b>ウェブ管理費</b>	<b>452,584</b>	<b>810,634</b>	<b>△ 358,050</b>
ホームページ管理費	452,584	810,634	△ 358,050
<b>研究発表費</b>	<b>4,584,545</b>	<b>4,792,023</b>	<b>△ 207,478</b>
学術講演会開催費	1,850,397	2,926,902	△ 1,076,505
研究会開催費	1,127,273	1,132,809	△ 5,536
講習会開催費	658,730	710,922	△ 52,192
専門研究会費	2,204	21,390	△ 19,186
岩崎コンファレンス開催費	446,181	0	446,181
MSJ講習会開催費	499,760	0	499,760
<b>表彰・奨励費</b>	<b>555,447</b>	<b>1,920</b>	<b>553,527</b>
表彰費	555,447	1,920	553,527
<b>活性化費</b>	<b>47,174</b>	<b>36,006</b>	<b>11,168</b>
<b>支払保険料</b>	<b>8,200</b>	<b>46,466</b>	<b>△ 38,266</b>
<b>会議費</b>	<b>0</b>	<b>30,970</b>	<b>△ 30,970</b>
諸委員会費(企画・編集・表彰)	0	30,970	△ 30,970
<b>給与手当</b>	<b>10,245,281</b>	<b>10,521,024</b>	<b>△ 275,743</b>
<b>職員通勤交通費</b>	<b>140,493</b>	<b>129,252</b>	<b>11,241</b>
<b>福利厚生費</b>	<b>6,022</b>	<b>1,386</b>	<b>4,636</b>
<b>法定福利費</b>	<b>1,139,100</b>	<b>636,173</b>	<b>502,927</b>
<b>什器備品費</b>	<b>52,776</b>	<b>170,822</b>	<b>△ 118,046</b>
<b>消耗品費</b>	<b>48,897</b>	<b>39,869</b>	<b>9,028</b>
<b>通信・運搬費</b>	<b>274,683</b>	<b>246,184</b>	<b>28,499</b>
<b>会員データ管理費</b>	<b>276,424</b>	<b>254,100</b>	<b>22,324</b>
<b>事務所費</b>	<b>2,717,568</b>	<b>2,769,178</b>	<b>△ 51,610</b>
賃借料	2,676,643	2,616,768	59,875
リース料	40,925	152,410	△ 111,485
<b>払込手数料</b>	<b>112,311</b>	<b>121,524</b>	<b>△ 9,213</b>
<b>租税公課</b>	<b>453,432</b>	<b>401,167</b>	<b>52,265</b>
<b>雑費</b>	<b>134,538</b>	<b>237,274</b>	<b>△ 102,736</b>
<b>減価償却費</b>	<b>95,245</b>	<b>95,246</b>	<b>△ 1</b>
<b>退職給付費用</b>	<b>1,109,576</b>	<b>625,750</b>	<b>483,826</b>

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費	4,118,529	4,017,601	100,928
給与手当	1,951,482	2,004,005	△ 52,523
職員通勤交通費	26,761	24,619	2,142
福利厚生費	1,147	264	883
法定福利費	216,969	121,176	95,793
什器備品費	10,052	32,538	△ 22,486
消耗品費	9,314	7,594	1,720
通信・運搬費	52,320	46,893	5,427
会員データ管理費	52,652	48,400	4,252
事務所費	517,632	527,462	△ 9,830
賃借料	509,837	498,432	11,405
リース料	7,795	29,030	△ 21,235
払込手数料	21,392	23,148	△ 1,756
諸謝金	770,000	660,000	110,000
租税公課	86,368	76,413	9,955
雑費	25,626	45,195	△ 19,569
減価償却費	18,142	18,142	0
会議費	147,324	262,562	△ 115,238
総会費	79,420	92,980	△ 13,560
理事会費	16,390	0	16,390
諸委員会費（総務・財務・広報）	1,420	0	1,420
選挙管理委員会	50,094	169,582	△ 119,488
退職給付費用	211,348	119,190	92,158
經常費用計	31,019,577	31,266,112	△ 246,535
当期經常増減額	114,458	△ 92,614	207,072
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	114,458	△ 92,614	207,072
一般正味財産期首残高*	55,262,716	55,355,330	△ 92,614
一般正味財産期末残高	55,377,174	55,262,716	114,458
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高*	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産期末残高	10,247,317	10,247,317	0
III 正味財産期末残高	65,624,491	65,510,033	114,458

# 財産目録

2022年3月31日現在

単位：円

貸借対照表科目		場所・物量・使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
	現金	現金手元有高	10,778
	普通預金	三菱UFJ銀行神保町支店	1,711,367
		三井住友銀行神田支店	4,267,740
		みずほ銀行神田支店	1,339,096
		ゆうちょ銀行振替口座	8,572,425
		ゆうちょ銀行通常貯金	0
	未収金	広告料	481,250
	前払金	1cAUMS、第46回学術講演会関連	1,517,016
流動資産合計			17,899,672
<b>(固定資産)</b>			
<b>基本財産</b>			
	定期預金	みずほ銀行神田支店	10,000,000
基本財産合計			10,000,000
<b>特定資産</b>			
	学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	普通預金(みずほ銀行神田支店)	2,000,000
	国際会議準備特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	17,009,023
	事務所充実特定預金	定期預金(みずほ銀行神田支店)	471,962
	出版広報特定預金	定額貯金他	6,216,068
	萌芽的研究推進特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	20,327,849
	退職給付引当預金	普通預金(みずほ銀行神田支店)	4,868,094
特定資産合計			50,892,996
<b>その他固定資産</b>			
	什器備品	パソコン	2
	ソフトウェア	会計ソフト	210,996
	電話加入権		134,625
	敷金	東京YWCA	1,072,500
その他固定資産合計			1,418,123
固定資産合計			62,311,119
資産合計			80,210,791
<b>(流動負債)</b>			
	前受金	2022年度入会金・研究会資料予約購読料他	478,000
	前受会費	2022年度会費	7,198,500
	預り金	源泉所得税、社会保険料等	433,885
	賞与引当金	2021年度職員に対する期末手当の支払いに備えたもの	958,600
	未払金	会報誌送料・社会保険料	89,421
	未払消費税		539,800
	仮受金	過払い年会費	20,000
流動負債合計			9,718,206
<b>(固定負債)</b>			
	退職給付引当金	職員に対するもの	4,868,094
固定負債合計			4,868,094
負債合計			14,586,300
正味財産			65,624,491

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法に基づく定額法を採用している。

なお、主な耐用年数は次のとおりである。

什器備品 3年

ソフトウェア 5年

(2) 引当金の計上基準

①賞与引当金

職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

②退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、

当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際会議準備特定預金	17,009,023	0	0	17,009,023
事務所充実特定預金	471,962	0	0	471,962
出版広報特定預金	6,216,068	0	0	6,216,068
萌芽的研究推進特定預金	20,774,030	0	446,181	20,327,849
退職給付引当特定預金	3,547,170	1,320,924	0	4,868,094
小計	50,018,253	1,320,924	446,181	50,892,996
合計	60,018,253	1,320,924	446,181	60,892,996

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	4,573,287	12,435,736	0
事務所充実特定預金	471,962	0	471,962	0
出版広報特定預金	6,216,068	0	6,216,068	0
萌芽的研究推進特定預金	20,327,849	4,674,030	15,653,819	0
退職給付引当特定預金	4,868,094	0	0	4,868,094
小計	50,892,996	10,247,317	35,777,585	4,868,094
合計	60,892,996	10,247,317	45,777,585	4,868,094

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品(PC)	121,800	121,799	1
什器備品(PC)	129,168	129,167	1
ソフトウェア(会計ソフト)	351,660	140,664	210,996
合計	602,628	391,630	210,998

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

補助金等の名称	交付者	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
研究会助成金(KC-2102)	加藤科学振興会	0	300,000	300,000	0	—
研究会助成金(KC-2103)	加藤科学振興会	0	200,000	200,000	0	—
合計		0	500,000	500,000	0	

## 監査結果報告

令和4年5月20日  
監事：高野 良紀 (印)  
監事：小林 宏一郎 (印)

私たち監事は令和3年度における当法人の財産ならびに理事の職務の執行の状況を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法およびその内容

各監事は、監事監査規定に則り理事および職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備につとめるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査した。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録）並びに収支計算書について監査した。

### 2. 監査の結果

#### (1) 理事職務執行の監査結果

理事職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

#### (2) 財務諸表および収支計算書の監査結果

財務諸表は、当法人の令和4年3月31日現在の財政状態並びに同日に終了した令和3年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しており、また収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日 公益法人等の指導監督に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、当法人の令和4年3月31日に終了した令和3年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### (3) 監査人の意見

##### 1. 理事職務執行について

各理事および副会長に関する役割分担を明確にし、かつ各業務の遂行状況を理事会で報告し、議事録上で確認することができており、継続的にかつ十分に機能していると考えます。

##### 2. 事業について

感染症蔓延に対応し、開催予定であった国際会議を延期するなどの対応を行い、また、学術講演会、研究会、専門研究会、各種会議をオンラインで行ったが、それに対する対応は適切であったと考える。

##### 3. 財務諸表および収支計算書について

令和3年度も上述のように、多くの会議をオンライン開催に変更したため、大幅な赤字圧縮となった。今年度新規事業として MSJ 講習会を開催し、収入増になったことは評価に値する。しかし、研究会・専門研究会の運営、理事会による会員への働きかけにおける多大な努力は認められるが、正会員数の減少に対しての効果が十分に得られておらず、収入の面には大きな課題がある。また、広告掲載企業の開拓、維持を継続的に行っていく必要がある。

以上

## 独立監査人の監査報告書

2022年 5月17日

公益社団法人 日本磁気学会  
会長 杉本 諭 殿

文野公認会計士事務所

公認会計士 文野清正



### <財務諸表等監査>

#### 監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の2021年4月1日から2022年3月31日までの2021年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## <財産目録に対する意見>

### 財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の 2022 年 3 月 31 日現在の 2021 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

### 財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

### 財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

### 利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 第3号議案 令和4(2022)年度 事業計画に関する件

## 2022(令和4)年度 事業計画

(2022年4月1日～2023年3月31日)

今年度もコロナ禍による各種イベントへの制約が懸念される中、オンライン会議システムの利用などにより、学術講演会や研究会、初等磁気工学講座などの魅力溢れる各種イベントの開催を進める。また、岩崎コンファレンスなどのイベントにより他学会との連携の促進を図るなど、各種施策の実行を通して、会員への更なるサービス向上に努めていく。学会の財政状況について、各委員会のこれまでの地道な努力により、近年は一定の収支改善が見られているが、コロナ禍による一時的な支出減によるところも大きく、抜本的な赤字体質からの脱却を果たすため、引き続き、会員数増や、魅力あふれる各種イベントの企画・実行による参加者数増等、財務体制改善に関する取り組みや、ガバナンスの強化を一層進める。

本年度は特に下記の6点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、社会に貢献できる学会として邁進する。

### ◎学会活動のポイント

1. **理事会と事務局の密接な連携による学会業務の推進機能の強化・充実**
2. **コロナ禍後も見据えた財務体制の強化**
3. **新分野創出を担う専門研究会の活動の周知・活性化**
4. **学会連携の促進による新分野の構築および活性化**
5. **HP や Facebook の活用により本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動の強化**
6. **国際会議 Intermag2023, IcAUMS2024 の確実な準備**

### I 事業の状況

#### 1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

##### 1. 1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に1回開催する。
- ・ 第43回学術講演会までと同様に、参加者来場形式での開催を基本とするが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)をめぐる社会情勢を踏まえ、オンライン形式での開催にも対応できる形で準備を進める。
- ・ 2022年09月06日(火)から09月08日(木)まで、信州大学 長野キャンパス(長野県長野市)において第46回日本磁気学会学術講演会を開催する。シンポジウムセッション・オーラルセッションに加えて、ポスターセッションを併設する予定である。
- ・ COVID-19の感染拡大継続により、やむを得ず参加者来場形式開催が困難な場合は、第46回学術講演会をオンライン形式で開催する。
- ・ フェロー制度の制定に伴い、フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

##### 1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第46回学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログ

ラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

#### 1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第 46 回 学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

#### 1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 46 回 学術講演会の概要集についても昨年同様にウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことで、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

#### 1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 46 回 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行えるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加も期待できる。

#### 1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの継続

- ・ 第 42 回、第 43 回 日本磁気学会 学術講演会で行ったポスターセッションが好評であったことから、第 46 回 学術講演会においても、ポスターセッションの開催を継続する。ポスターセッション併設により、発表形式の多様化を実現し賛助会員や会員にとって参加し易くするとともに、磁気の専門家同士による活発な情報交換の場を提供して、学術講演会の価値向上に努める。

#### 1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 46 回 学術講演会では、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々によるフェロー記念講演を開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

#### 1. 2 研究会

- ・ 新しく、また興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年 5 回を目安として定期的で開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題
第 237 回	22 年 7 月	スピントロニクス
第 238 回	22 年 10 月	マテリアルズインフォマティクス
第 239 回	22 年 11 月	未定
第 240 回	22 年 1 月	シミュレーション技術
第 241 回	22 年 3 月	未定

- ・ 研究会についても COVID-19 の感染拡大状況を踏まえ、開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

### 1.3 講習会、公開講演会など

- ・「日本磁気学会 初等磁気工学講座」と「日本磁気学会 サマースクール」を、6月に開催する。電気学会との共催にすることで、参加人数の増加を期待する。
- ・主に小学生を対象とした、磁気に関する啓蒙的講座(公開講演会)を1回程度開催する。
- ・当学会の活動を広く知ってもらい入会を促すことに主眼を置いた「MSJ講習会」の企画・開催を検討する。
- ・講習会、公開講演会についても、COVID-19の感染拡大状況を踏まえ開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

### 1.4 専門研究会

- ・専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会をそれぞれ年2回以上開催する。
- ・研究会への参加者を増やすための取り組みとして、研究会開催案内専用のメーリングリストを設け、運用を開始する。
- ・専門研究会についても、COVID-19の感染拡大状況を踏まえ開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

### 1.5 岩崎コンファレンス

- ・第8回岩崎コンファレンスを Society5.0 に資する磁性材料等をテーマとして開催する。開催時期は12月、開催形態は会場(仙台)での対面とリモートによるハイブリッド形式を予定している。

## 2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

### 2.1 学会誌および学会報の発行

- ・2022年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.46, No.3(通巻第321号)から Vol.47, No.2(通巻第326号)まで隔月で年度内に6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・学会報「まぐね」を Vol.17 No.2(通巻第128号)より Vol.18, No.1(通巻第133号)まで隔月で年度内に6回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・学術講演会での講演に関する論文を集めた「日本磁気学会論文特集号(Transaction of the Magnetism Society of Japan Special Issues)」を Vol.6, No.1(通巻第11号), Vol.6, No.2(通巻第12号)の2回発行する。
- ・学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。

- ・ 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

## 2.2 出版活動の推進

- ・ 本年度も編集委員会が中心となって出版事業を推進する。2022年度は、教科書シリーズ1巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

## 2.3 Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化と SCI 登録に向けた取り組み

- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の SCOPUS に登録に引き続き、2020年度に SCI 登録申請を行った。SCI 審査結果の連絡を待ち、フォローアップする。
- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
  - (1) 論文の査読の迅速化  
迅速な論文査読を徹底する。
  - (2) Review 論文の充実  
理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。  
学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。
  - (3) 投稿論文の充実  
専門研究会からの投稿を募る。  
投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。  
引用数の拡大に関する呼びかけを進める。
  - (4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。

## 3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指し、ホームページの充実と Facebook の活用を通じて戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。
- ・ 技術情報サービスやメールマガジンによる情報提供により会員のメリットを高め、会員の獲得・維持を図る。

## 4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 2022年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。ただし、コロナ禍により学術講演会がオンライン開催となった場合は、表彰式の開催形態と時期について、総務と企画で検討する。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気学の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、フェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。
- ・ 本学会を代表する表彰である学会 3 賞(学会賞、業績賞、優秀研究賞)の選考のあり方について、分野の偏りの是正や透明性の確保など、選考の抜本的な見直しを理事会で検討し、実

施する。

- ・ 学術講演会にて懇親会が開催された場合、MSJ 論文奨励賞・ポスター講演賞・学術奨励賞・学生講演賞の受賞者を懇親会へ招待し、会員間の交流の促進および継続的な活躍を動機付ける場を提供する。

## 5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- ・ 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA)に基づく相互協力を継続する。2019年度にスタートした「IEEE Magnetics Society の各 Japan chapter の代表者」と「MSJ の会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を推進する。
- ・ 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム等と Asian Union of Magnetics Societies (AUMS) を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、AUMS カウンシルミーティングにおいて、IcAUMS2024 等に向けた密な情報交換を行う。更に、ポストコロナを踏まえた欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。
- ・ 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- ・ Intermag2023(2023年5月に仙台国際センターで開催予定)について、現地実行委員会と協力して準備および周知活動を進める。
- ・ コロナ禍のため延期となった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 に代わり、IcAUMS2024(2024年3月に沖縄コンベンションセンターで開催予定)について、AUMS や現地の大学教員と連携して、日本の出入国管理などコロナ禍の影響を考慮しつつ準備活動を進める。

## II 会議

令和4年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

### 1. 総会

- ・ 通常総会は2022(令和4)年6月27日(月)に開催する。2021年度事業報告および収支決算、2022年度の事業計画および収支予算などについて、審議および議決する。
- ・ コロナ禍のため、オンライン・オンサイト併用で開催する。

### 2. 理事会

- ・ 2022年度の理事会は、原則として6回開催する。総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実などについて審議を行う。コロナ禍の影響を考慮し、オンライン会議主体で実施する。
- ・ 公益法人としてのガバナンスおよびコンプライアンス体制強化のため、副会長担務の明確化(運営戦略担当、学術連携担当)による委員会相互の連携強化、および、理事会決定事項の実行責任・過程の見える化を継続して推進する。
- ・ 特任理事(男女共同参画担当、学会連携担当、国際会議担当)を総務委員会内に置き、学会として強化すべき諸課題を集中的に解決できる体制を継続する。
- ・ 広告数増を目指した活動や、学会間連携に関する検討など、理事会で積極的に対応すべき

事象に特化したタスクフォースを立ち上げることによって、会長のガバナンスのもと、副会長（運営戦略担当）を中心として柔軟に対応できる体制を確立し、問題解決を確実に実行していく。

- ・ 本学会の国際プレゼンスの向上を目指して、副会長（学術連携担当）を中心とするタスクフォースを設置し、各種施策の立案実施に向けた検討を進める。

### 3. 顧問会、懇談会

- ・ 学会の諸活動に関して会長、副会長および理事会に意見を具申する機会として、学術講演会の期間中に顧問会を年1回開催する。
- ・ 名誉会員および賛助会員の学会活動に対する意見を収集するため、学術講演会の期間中に名誉会員懇談会および賛助会員懇談会をそれぞれ年1回開催する。
- ・ 懇談会等において収集した意見について、副会長（運営戦略担当）および総務理事が中心となって検討を行うとともに、課題に応じて担当する理事を指名し、各委員会で確実に解決・実行を進める。
- ・ コロナ禍により学術講演会がオンライン開催となった場合は、顧問会、並びに各種懇談会等は実施しない。

## III 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

### 1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るため、財務体質の改善や会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化および各委員会の横の連携を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

### 2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 副会長（運営戦略担当）をトップとする広告タスクフォースの活動を継続し、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数ならびに企業展示の増加を図る。コロナ禍のための困難も予想されるが、今年度も理事会の責任で、広告・展示勧誘活動を継続する。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

### 3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会：

- ・理事会決定事項の進捗把握を一層進めると共に、引き続き事務局と拡大定例会を毎月開催して連携を深め、確実な推進を行う。
- ・コロナ感染状況等に応じて、事務局職員は在宅勤務を柔軟に活用する。
- ・賛助会員の学会運営への参画に対する各種取り組みを推進する。
- ・男女共同参画事業など、会員の満足度を向上させる各種取り組みを推進する。
- ・パワーマグネティクス分野などの、今後大きな発展が見込まれる研究分野について、他学会との連携を強力に推進する。
- ・Intermag2023, IcAUMS2024 などの国際会議の開催準備を中心となって進める。
- ・財務状況の改善並びに新規会員の掘り起こしに向けた、大学並びに高専の研究室を対象とした新賛助会員制度を設計し、運用に向けた準備を行う。
- ・総会委任状提出や役員選挙投票の電子化を事務局と検討する。

◎財務委員会：

- ・財務内容に大きくポジティブ/ネガティブなインパクトを与える活動の洗い出しを進める。
- ・会費収入増にむけた施策を提言する。
  1. 年会費見直し
  2. 新しい磁気技術分野の会員獲得
- ・財務改善のため支出減に向けた施策の検討と提言を進める。  
委員会活動費の見直し(web 会議の試行・奨励)、各種印刷物の電子化推進など

◎企画委員会：

- ・賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を開催・運営する。
- ・需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス関係など)に関する初等的入門講座の実施を企画する。
- ・専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会：

- ・学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ 論文奨励賞の授与を継続する。
- ・迅速な論文査読を徹底する。

◎広報委員会：

- ・ホームページの充実と Facebook の活用を通じて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ホームページ上のコンテンツ「技術情報」に「まぐね」連載講座を順次追加するなど、充実を図る。
- ・メールマガジンを随時発行し、各種研究会の開催情報や学会誌情報など、有用な情報をタイムリーに会員に提供する。
- ・会員のメリットを高めるため、技術情報サービスを定期的に発行し、磁気に関する最新の技術情報を会員に提供する。

◎国際委員会：

- ・本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。

# 第4号議案 令和4年度(2022年度)収支予算に関する件

(2022年4月1日～2023年3月31日)

## 令和4年度(2022年度)収支予算(正味財産増減計算書)

単位:円

科目	2021年度	2022年度	増減(2022-2021)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
<b>基本財産運用益</b>	2,000	2,000	0
<b>特定資産運用益</b>	400	400	0
<b>受取会費</b>	15,900,000	15,900,000	0
入会金収入		200,000	
正会員会費収入		10,500,000	
学生会員会費収入		700,000	
賛助会員会費収入		4,500,000	
<b>事業収入</b>	15,000,000	18,500,000	3,500,000
学術講演会収入	4,500,000	7,200,000	2,700,000
研究会収入	1,600,000	1,600,000	0
岩崎コンファレンス収入	700,000	800,000	100,000
講習会収入	1,800,000	2,700,000	900,000
投稿料収入	2,200,000	2,200,000	0
著作権料収入	0	0	0
広告料収入	4,200,000	4,000,000	△ 200,000
<b>雑収入</b>	200,000	500,000	300,000
<b>経常収益計</b>	31,102,400	34,902,400	3,800,000
(2) 経常費用			
① 事業費	23,979,667	27,304,570	3,324,903
<b>雑誌発行費</b>	3,840,000	4,720,000	880,000
会報発行支出(まぐね)	3,000,000	3,880,000	880,000
論文発行費	700,000	700,000	0
電子ジャーナル	140,000	140,000	0
<b>ウェブ管理費</b>	417,000	412,000	△ 5,000
ホームページ管理費	417,000	412,000	△ 5,000
<b>研究発表費</b>	6,260,000	8,270,000	2,010,000
学術講演会開催	2,800,000	4,500,000	1,700,000
学術会合費	300,000	140,000	△ 160,000
研究会開催	1,500,000	1,200,000	△ 300,000
講習会開催	800,000	1,600,000	800,000
岩崎コンファレンス開催	470,000	500,000	30,000
専門研究会開催	390,000	330,000	△ 60,000
<b>表彰・奨励費</b>	400,000	250,000	△ 150,000
表彰費	400,000	250,000	△ 150,000
<b>活性化費</b>	120,000	200,000	80,000
<b>会議費</b>	0	680,000	680,000
諸委員会費	0	680,000	680,000
<b>給与手当</b>	7,533,820	7,700,000	166,180
<b>福利厚生費</b>	770,000	876,400	106,400
<b>職員通勤交通費</b>	119,000	119,000	0
<b>退職給付引当費用</b>	924,647	455,994	△ 468,653
<b>減価償却費</b>	79,800	79,800	0
<b>賞与引当費用</b>	378,000	670,600	292,600
<b>事務所費</b>	2,335,200	2,218,776	△ 116,424
<b>雑費</b>	140,000	140,000	0
<b>支払保険料</b>	0	50,000	50,000
<b>その他費用</b>	662,200	462,000	△ 200,200

科目	2021年度	2022年度	増減(2022-2021)
②管理費	6,996,857	7,072,530	75,673
給与手当	3,228,780	3,300,000	71,220
福利厚生費	330,000	375,600	45,600
職員通勤交通費	51,000	51,000	0
通信・運搬費	85,800	81,000	△ 4,800
消耗品費	30,000	30,000	0
印刷費	9,000	9,000	0
事務所費	1,000,800	950,904	△ 49,896
賃貸料		934,560	
リース料		5,544	
在宅環境費	10,800	10,800	0
諸謝金	770,000	770,000	0
什器備品費	15,000	15,000	0
租税公課	99,000	3,000	△ 96,000
雑費	60,000	60,000	0
払込手数料	45,000	60,000	15,000
会議費	350,000	520,000	170,000
総会費	150,000	150,000	0
理事会費	200,000	200,000	0
諸委員会費	0	0	0
選挙管理委員費	0	170,000	170,000
ウェブ管理費	330,000	330,000	0
会員データ管理費	330,000	330,000	0
退職給付引当費用	396,277	195,426	△ 200,851
減価償却費	34,200	34,200	0
什器備品減価償却費	13,100	13,100	0
ソフトウェア減価償却費	21,100	21,100	0
賞与引当金費用	162,000	287,400	125,400
<b>経常費用計</b>	<b>30,976,524</b>	<b>34,377,100</b>	<b>3,400,576</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>125,876</b>	<b>525,300</b>	<b>399,424</b>
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
<b>経常外収益計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
(2)経常外費用			
<b>経常外費用計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	125,876	525,300	399,424
一般正味財産期首残高	15,913,521	16,039,397	125,876
一般正味財産期末残高	16,039,397	16,564,697	525,300
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	11,000,000	11,000,000	0
指定正味財産期末残高	11,000,000	11,000,000	0
III 正味財産期末残高	27,039,397	27,564,697	525,300

## 第5号議案 名誉会員の推薦に関する件

下記の方を名誉会員候補として総会に上程することが、令和4年5月20日に開催された理事会において承認されました。

下記の通り、名誉会員候補者として推薦します。

候補者名（年齢）	生年月日	推薦基準
喜多 英治 氏（70）	筑波大学	第5条2 2)

### 会員規定第5条（名誉会員の資格）

2 理事会における名誉会員の推薦基準は下記のとおりとする。

- 1) 前または元会長で、65歳以上の会員
- 2) 前または元副会長で、70歳以上の会員
- 3) 学会賞受賞者で、65歳以上の会員
- 4) 業績賞受賞者で、70歳以上の会員
- 5) 磁気分野における業績で文化勲章または文化功労者の顕彰を授けられた会員
- 6) 磁気分野で学士院賞等を授賞し、本学会に功績顕著な者で、65歳以上の会員
- 7) 前記の1)～6)項と同等あるいはこれに準ずる業績および功績のある者